

製品名: パキシリン (リン酸化 Tyr118) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab05215

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 64kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | PXN |
| 別名 | PXN; Paxillin |
| 遺伝子 ID | 5829.0 |
| SwissProt ID | P49023 |
| 免疫原 | 抗血清は、ヒトパキシリン由来の Tyr118 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 85-134 |

背景

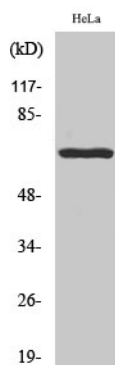
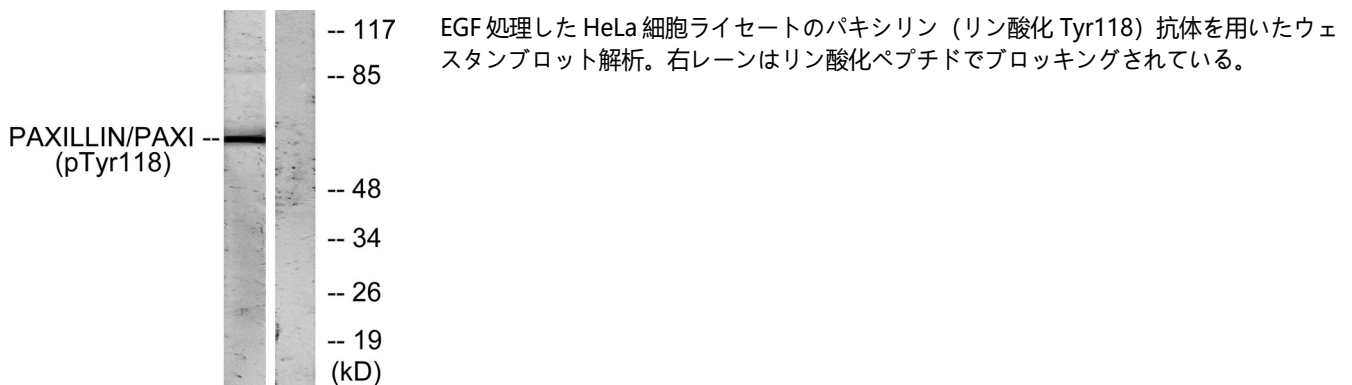
この遺伝子は、細胞外マトリックスへの細胞接着部位 (接着斑) におけるアクチン膜への接着に関与する細胞骨格タンパク質をコー

ドしています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されています。これらのアイソフォームはそれぞれ異なる発現パターンを示し、生化学的特性だけでなく生理学的特性も異なります (PMID:9054445)。 [RefSeq 提供、2011年8月]、機能:細胞外マトリックスへの細胞接着部位 (接着斑) におけるアクチン膜結合に関与する細胞骨格タンパク質。、PTM:インテグリンを介した細胞接着、胚発生、線維芽細胞の形質転換、およびミトゲンによる細胞刺激後に、チロシン残基がリン酸化される。、類似性:パキシリンファミリーに属する。、類似性:3つの LIM 亜鉛結合ドメインを含む。、類似性:4つの LIM 亜鉛結合ドメインを含む。、サブユニット:in vitro でビンキュリンおよび c-SRC の SH3 ドメインに結合し、チロシンリン酸化されると V-CRK の SH2 ドメインにも結合する。アイソフォーム β は接着斑キナーゼに結合するが、ビンキュリンには弱く結合する。アイソフォーム γ はビンキュリンに結合するが、接着斑キナーゼとは弱く結合する。GIT1、NUDT16L1/SDOS、PARVA、TGFB1I1 と相互作用する。細胞質複合体の構成要素であり、GIT1、ARHGEF6、PAK1 も含まれる (相同性による)。ASAP2 に結合する。リン酸化されていない ITGA4 と相互作用する。RNF5 と相互作用する。

研究分野

ケモカイン、VEGF、接着斑、白血球の内皮透過移動、アクチンと細胞骨格の調節、

画像データ



ホスホパキシリン (Y118) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析